

【就労事例部門】

入選 三川 草平

大量の脅威情報の分析に、PythonとSQLを使って業務範囲の拡大へ

私は業務でMISP(Malware Information Sharing Platform)というプラットフォームを使っています。MISPはセキュリティ業界では世界的に広く使用されており、脅威情報(マルウェアの通信先など)をデータベースで管理しています。管理されたデータはWebからも閲覧・検索が可能で、スクリーンリーダーでもほぼ問題なく使用できます。

ただ、扱うデータの件数は時として数億件にも上るため、Webから各データを目視で処理するのは不可能です。特にスクリーンリーダーでのデータ処理は晴眼者に比べ、労力と時間がかかってしまうものです。

しかし、プログラミング言語のPythonやデータベース言語のSQLを使うことで、大量データの集計などを簡単に行うことができます。特にPythonにおいてはMISP専用のライブラリが公開されているため、より導入へのハードルも低くなっています。実際に私も毎日数万件のデータ登録や、必要に応じたデータ取得・集計をコマンド実行で行っています。これらの操作にビジュアル的な操作は必要なく、障害によるバリアは全くありません。今後よりMISPが普及すると同時に、視覚障害者の職域も拡大すると考えているため、私もMISPの普及に尽力していく所存です。

審査員コメント

視覚障害があっても、プログラミング言語やデータベース言語を使いこなせば、数億件という大量のデータ処理が可能なのだという実証している三川さんの取り組みに脱帽しました。



三川 草平

1992年生まれ。
2016年に新卒採用された企業で、Excelのマクロ開発などを担当。
2018年に現在の企業へ転職し、セキュリティエンジニアとして勤務。
・受賞歴: 第37回全国障害者技能競技大会(アビリンピック) パソコン操作 銅賞
・保有資格: 情報処理安全確保支援士